

ポスターコンクール

平成30年9月10日に板橋区明るい選挙啓発ポスターコンクール審査会が開催されました。区内小・中学校、高等学校30校から605点の応募があり、その中から以下4点の「最優秀賞」が選出されました。たくさんのご応募ありがとうございました。
他の入選作品は区ホームページに掲載しています。ぜひ、こちらをご覧ください。

東京都優秀賞作品

【小学校低学年の部】

【小学校高学年の部】

【中学校の部】

【高等学校の部】



中島 香南
(志村第六小学校)



大嶋 穂花
(高島第二小学校)



角田 花凜
(上板橋第三中学校)



島田 萌花
(東京家政大学附属女子高等学校)

編集委員

- 編集長 高島平地区 本橋 良浩
- 編集委員
- 板橋地区 吉田 和雄
 - 仲宿地区 宮崎 裕子
 - 大谷口地区 大野 篤子
 - 常盤台地区 櫻井 陽子
 - 中台地区 室岡 三男
 - 前野地区 田中 有子
 - 下赤塚地区 吉原 博
 - 成増地区 廣瀬 博子

若年層の政治意識を高め投票率を上げるための「めいせん42号」では、編集委員が直接高校生にインタビューし、生の声を引き出すべく取材をしました。併せて日頃の編集委員の意見や川柳などを交えて編集しました。

好評の子ども達のポスターと共に、若年と壮年とのコラボで面白く役に立つ誌面作りを心がけました。

ご一読頂ければ幸いです。

編集長 本橋 良浩

編集後記

明るい選挙



【板橋区選挙管理委員会・高島高校協働プロジェクト】

今年4月に行われる板橋区議会議員選挙・板橋区長選挙に向けて、高島高校の生徒さんと協働でPR活動を行います。「若者が選挙に興味を持ってもらうにはどうしたらいいか。」そんな課題に、将来を担う8名の生徒さんと一緒に取り組みます。



若者の投票率が低下している中、18歳で高校生が選挙権を与えられることについて、生の声を聞いてみました。

- Q1. 18歳から選挙ができるようになりましたが、若い人の投票率は低下しています。皆さんの立場から見て、なぜ若い人の投票率が低いと思われますか。
- A. 「若者は世間で話題になると敏感に反応するけど、話題性がなくなると関心を持たなくなると思う。」
 - A. 「候補者の考えや政策の違いが分かりにくいから、投票意欲がなくなってしまっていると思う。」
- Q2. 皆さんの立場からみて、どうすれば若い人の投票率が上がると思いますか。
- A. 「若者に人気のある俳優・アイドルなどの人たちが政治に関して発信してくれると、選挙に興味を持つと思う。」
 - A. 「若者のための政策を主張する候補者が少ない。若者の抱える問題をテーマにした公約を掲げてくれれば投票率は上がると思う。」
- Q3. 友達やご家族と選挙について、話しをしたりしますか。
- A. 「ニュースを見ている時などに話題になれば話す。ただ、関心がないと話さない。」
- Q4. 地域の活動(お祭りや運動会など)に参加されたことはありますか。
- A. 「小さい頃は家族で参加していた。最近は花火大会に行く程度で地域の行事には参加していない。」

【司会進行】吉田和雄 【書記】大野篤子

編集委員の感想【インタビュアー】室岡三男

「若者のことは若者に聞け！」と思い、今回ご協力をいただき、インタビューを行いました。興味深かったのは「若者に影響力のある芸能人がもっと政治について発信するべき」という意見です。今回の経験を今後の啓発活動に活かせればと思っております。



先生のおはなし




板橋区選挙管理委員会と高島高校との協働プロジェクトを実施するにあたり、生徒さんの頑張っている姿を、一番身近に感じている大畑先生にお話を伺いました。

**おはたまさと
大畑 方人先生**

経 歴

早稲田大学商学部及び政治経済学部卒。
私立中高教諭等を経て、二〇一三年から現職。担当教科は公民科。J-C E F (日本シテイズンシップ教育フォーラム) 運営委員、NHK教育番組『昔話法廷』番組委員を務める。共著『授業LIVE』一八歳からの政治参加(清水書院、二〇一七年)



今回の企画について

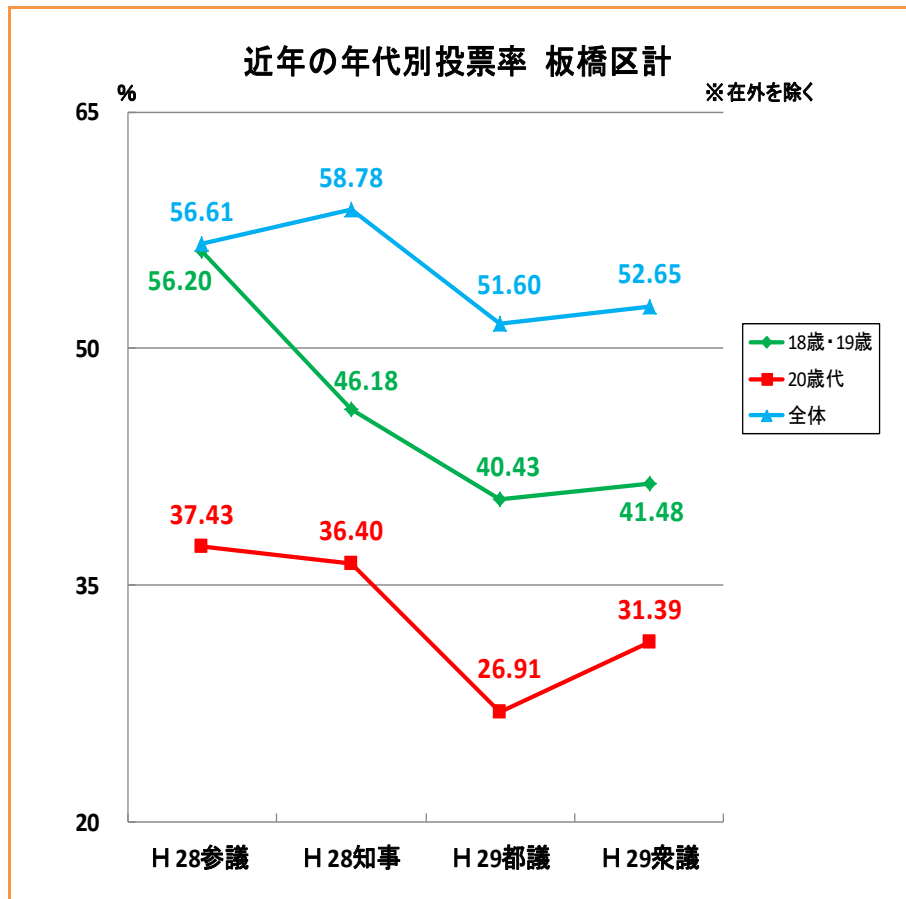
高島高校では平成25年夏の参議院議員選挙から継続的に模擬選挙を行うなど、学校全体として主権者教育に力を入れてきました。その甲斐あって、平成28年に選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた後は、有権者となった高校生3年生の多くが投票に足を運んでいました。

そうした生徒たちが、今回は板橋区全体の若者の投票率向上を目指して立ち上がりました。今年4月に実施予定の板橋区議会議員選挙・板橋区長選挙の際には、高校生らしい「キャッチーで、カジュアルで、クールな」PR活動を行ってほしいです。

街頭啓発を行う生徒たちを見かけた折には、応援の程よろしく願っています。



若年層の投票率の低迷



平成28年の参議院議員選挙から有権者の選挙権年齢が18歳に引き下げられました。18歳、19歳の有権者にとっては、初めての選挙ということもあり、50%を超える投票率でした。しかし、2回目以降からは、低迷が続いている状況です。また、20代の投票率は板橋区では一番低く、10代、20代の投票率の改善に向けた取り組みを行っております。

注目!

投票の仕方がわからないと、投票すること自体を難しく考えてしまう人もいると思います。投票のシミュレーションが東京都選挙管理委員会のHPに掲載されているので、ぜひ体験してみてください!

その一票君の願いを届けよう

【解説】
政治がもつと身近にあるように、先ずは一人一人の小さな一歩に期待する思いを込めました。

宮崎裕子

「あたらしい顔」

田中有子

選挙立会いの長い一日の中で、投票所に来るのは初めてと思われる若い方が、少し恥ずかしそうに、少し不安そうに、私たちに目で確認しながら投票していく姿は疲れがふき飛ぶ喜びです。

この気持ちを声に出し、機会がある毎に、「自分たちの未来は、選挙を通して変わっていく」と、若い有権者に伝え続けなければならないと思うこの頃です。

盛り上がるライフ横目に選挙戦

【解説】
若い人達にあまり関心を持たれない選挙。「ライブに夢中になるのもいいけれど大事な選挙、投票をお忘れなく」と言いたい、お願いしたい。

吉原博

私たちが伝えたいこと

**投票日 杖つき向う 父の背が
子づいに伝える 重き一票**

【解説】
卒寿を過ぎてても、投票には必ず行っていた父です。ゆつくりと踏み締めながら歩く姿に、一票の大切さを教えられました。
*卒寿 九十歳

櫻井陽子

「20代の投票率の低迷について」

廣瀬博子

若年層の投票率、特に20代が際立って低い。政治に触れる機会が少なく、娯楽等を好むためか。18才選挙権を得た初の参議院議員選挙では、若者が政治に参加できる希望と喜び、責任感に溢れていた。その時の気持ちを思い出して欲しい。また、学校の模擬選挙で感じた一票の大切さに結びつけて欲しい。これからの日本を背負っていく若者達だ。政治に大いに関心を持ち、選挙をその手段として積極的に活用して、この国の未来を切り開いて欲しい。

